

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	福島大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	フクシマダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	北海道・東北地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	Work Experience Abroad 1、2
	学部・研究科等名	経済経営学類
	担当教職員名・役職	マッカーズランド・フィリップリロイ・教授
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	5
	受入企業等数	1
	受入企業等名	アメリカ ヒューストン市役所
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 3.海外インターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本プログラムは、学生が、海外でのビジネスの実践的な能力を向上させ、グローバル社会で活躍できる人材としてはばたく契機を提供するものである。具体的には、夏休みに、7.5週間のアメリカ・ヒューストン市役所でのインターンシップを実施する。また福島大学経済経営学類の専門科目「Work Experience Abroad」による事前・事後学習を行い、英語でのプレゼンテーションや報告書の作成を行う。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		2年次～4年次、および、大学院生
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		4単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		経済経営学類の専門科目 Work Experience Abroad1 1と、Work Experience Abroad 2の授業と連動している。それぞれ2単位、計4単位を付与している。またこれは英語特修プログラムのJapan Study Programの柱の一つでもある。Work Experience Abroad 1では、海外でのインターンシップで身に付けておくべき文化・技術などを英語で学ぶ。Work Experience Abroad 2では、海外でのインターンシップを行った学生が、自身が行ったインターンシップについて学内外で発表したり、報告書にまとめたりする。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	海外でのインターンシップで身に付けておくべき文化・技術などを英語で学ぶ。

要素③	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている 4.その他
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	福島の食や観光についてのアメリカの学生へのアンケートにより収集したデータの分析等も行い、英語でのプレゼンテーションや報告書などにまとめる。
	3-2-3.該当するモニタリング	2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している 3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ1週目は、教員がインターン先や街中で学生と面談し、その後は、SNSで日々学生が教員に連絡し、インターン先のスーパーバイザーやホームステイ関係者などと連携し、学生をモニタリングしている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習として、Work Experience Abroad 1では、7.5週間のヒューストン市役所でのインターンシップに耐える語学力・素養・技術を、英語で学ぶ。また危機管理についての学生への事前研修も実施する。派遣する学生は、英語でのエントリーシートと面接で、語学力や潜在的な可能性を含めて選考する。そして、自己紹介のビデオレターを作成したり、ヒューストン市役所とインターン先の部署のマッチングを行うなどして、インターンに備える。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後学習として、Work Experience Abroad 2では、ヒューストンでの7.5週間をふりかえり、福島についてのアメリカの学生へのアンケートの回答の分析等も行い、学内外に向けて英語での発表や報告書などにまとめる。また、経済経営学類のグローバル関連の情報を集約した部屋にある、アメリカのブースに改訂を重ねる。そして、翌年度の海外インターンの説明会の準備・実施などを行い、翌年度の海外インターンの派遣学生をサポートする。
要素④	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	ヒューストンでは、1週目は、担当教員が同行し、インターンシップ先とのマッチング、生活環境の整備、各種アクティビティ、ホームステイなどを調整している。その後はSkype等でモニタリングを実施するとともに学術交流協定を締結しているセントトーマス大学の関係者も、適宜、サポートに加わっている。さらに、ヒューストン日米協会やヒューストン日本国総領事館などからも、参加学生の安全面・交流面などのサポートを頂いている。
	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
要素⑤	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事後アンケートを実施するとともに、Work Experience Abroad 2の授業で、参加学生の本プログラムの達成目標の修得状況を把握する。さらに、ヒューストンでのインターン先に、インターンシップ中の参加学生の評価を依頼している。
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間53日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	2017年度は8月6日から9月28日の53日間、ヒューストン市役所でインターンシップを行い、セントトーマス大学やライス大学でアンケート調査なども適宜行った。インターン先の部署は、学生の関心にあわせて割り振った。また、夕方以降や休日は、学生各自ホームステイ先等で過ごした。2017年度は、途中、ヒューストン市をハリケーン・ハーベイが襲ったため、8月末から9月初旬に、学生はハーベイからの復旧のボランティアに携わった。	
6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい	

要素 ⑥	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	担当教員が事前にヒューストン市役所と協議を行い、協働してインターンシッププログラムを設計している。インターンシップ期間中は、担当教員とヒューストン市役所で随時連絡をとりあい、学生の動向を注視している。またインターンシップ中の参加学生の評価を担当教員がヒューストン市役所に依頼し、各学生のスーパーバイザーが担当教員に評価を送付している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://kokusai.adb.fukushima-u.ac.jp/abroad/intern.html">http://kokusai.adb.fukushima-u.ac.jp/abroad/intern.html</a> <a href="https://livecampus.adb.fukushima-u.ac.jp/ext_syllabus/">https://livecampus.adb.fukushima-u.ac.jp/ext_syllabus/</a> <a href="https://www.facebook.com/FukudaiHouston/545146532296521/">https://www.facebook.com/FukudaiHouston/545146532296521/</a>
問い合わせ先	大学等名	福島大学
	担当部署名	経済経営学類
	担当者役職名	経済経営学類支援室長
	担当者氏名	紺野奈津代
	電話番号	024-548-8353
	メールアドレス	keizai@adb.fukushima-u.ac.jp